平成 27 年 7 月 20 日

「海の日」を迎えて

一般社団法人　日本船主協会
会　長　　工藤　泰三

平成 27 年の「海の日」を迎えるにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

世界地図を見れば一目瞭然、わが国は四方を海に囲まれた島国です。エネルギー資源のほとんどを海外に依存し、衣食住あらゆる面で輸入に頼っています。一方でモノ作りに長じた日本国民は品質の優れた多くの生産品を輸出しており、これら輸出入の実に 99.7%が船で運ばれています。その結果、人口では世界の 2%弱でしかないわが国が世界の海上貨物の約 1 割を占め、経済大国として繁栄できている訳ですが、これは海運を利用できる海が周りにあり、これによって多くの恩恵を受けているからといえましょう。

このように海があっての海運は、わが国の暮らしや産業の重要インフラの 1 つであり、また造船業、舶用工業、金融業など産業へ波及効果が大きい海事クラスターの中核的存在であります。しかし海運産業は常に厳しい国際競争に晒されており、優秀な海事人材の確保や海賊対策などの課題が山積しております。

これら課題の解決に向け、海事振興連盟、国土交通省をはじめ関係省庁のみなさまには絶大なるご支援をいただき、大変感謝しております。一方で、海運産業がわが国および世界経済にとって重要なインフラであることを、国民の皆様にもっともっと認識いただくことも、諸課題の解決には欠かせません。

この夏は、国民の祝日「海の日」制定 20 年の記念すべき節目の年ということで、政府主催の IMO「世界海の日パラレルイベント」等が開催されますが、これらに併せ「船ってサイコー　せんきょう夏休みキャンペーン」と題し、様々なイベントを開催しています。この機会に青少年を始め多くの皆様に本物の船に触れていただき、海運の重要

性を深くご認識いただく一助となればと願っています。

国民の祝日「海の日」制定時は1000万人を超える皆様の支持がありました。年に1度『海の恩恵に感謝するとともに、海洋国家日本の繁栄を願う』ことはとても有意義であると考えます。皆様の心に深く刻んでいただけるよう「海の日」がシンボリックに7月20日に戻るよう強く願っています。

本日「海の日」を迎え、あらためて海に感謝し、海洋国家日本の益々の発展を心から祈念いたします。

以上